

第9款 警 察 費

科 目	予 算 現 額	決 算 額	主 要 な 施 策	施 策 の 実 施 状 況 と 成 果 等
1 警察管理費	円	円		
2 警察本部費 (P194)	563,247,000 (71,811,004,124)	562,568,382 (71,734,315,535)	警察安全相談員設置事業 (広報応接課)	<p>1 施策の趣旨等 相談に対する知識や経験の豊富な元警察官を警察安全相談員として任用し、府民からの多種多様な相談に迅速・的確に対応することにより、安全で安心なまちづくりを推進する。</p> <p>2 施策の実施状況 警察本部及び警察署に16人の警察安全相談員を配置して、府民からの各種相談を受理するとともに、相談内容に応じて関係機関に引き継ぐなど、相談案件の早期解決と事件の未然防止を図った。 警察安全相談員の年間相談受理事件数 4,839件 (主な内訳) 生活安全関係(家庭・職場・近隣関係、悪質商法、サイバー犯罪関係等) 3,174件 刑事関係(振り込め詐欺、恐喝、盗難、暴力団関係等) 643</p> <p>3 執 行 額 43,742,151円</p>
			運転免許更新センター及び地域防犯ステーション整備等事業 (会計課 地域課 運転免許試験課)	<p>1 施策の趣旨等 警察署の再編整備により廃止した七条警察署の跡地において、民間活力を導入し、府の財政負担を最小限に止めた整備手法により、京都駅前運転免許更新センター及び京都駅前地域防犯ステーションの整備を行う。 指標：来庁者数(月平均) 目標：約7,500人 実績：10,902人</p> <p>2 施策の実施状況 平成28年9月1日に運転免許更新センター及び地域防犯ステーションを開所し、運用を開始した。 運転免許更新センターについては、年間来庁者を約9万人(月平均約7,500人)と見込んでいたところ、開所から平成29年3月までの7箇月間の来庁者は、予測を大幅に上回る76,315人(月平均10,902人)であった。</p> <p>3 執 行 額 46,391,267円</p>





科 目	予 算 現 額	決 算 額	主 要 な 施 策	施 策 の 実 施 状 況 と 成 果 等
	円	円		<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者用・車両用灯器増設 162灯</li> <li>ウ 交通信号機の改良整備</li> <li>歩行者用・車両用灯器LED化 124灯</li> <li>信号機プログラム多段化 1基</li> <li>信号機多現示化 7</li> <li>視覚障害者用付加装置 1</li> <li>信号機改修 37</li> <li>閑散時押ボタン化 1</li> <li>信号機移設等 6</li> <li>エ 道路標識の整備</li> <li>路側式標識 39本</li> <li>大型固定反射式標識板 30枚</li> <li>オ 運転免許試験場広域避難用門扉の設置 一式</li> </ul>
				<p>3 執 行 額 249,069,600円</p>
			交通安全施設整備事業 (交通規制課)	<p>1 施策の趣旨等 交通事故の抑止と交通の円滑化による交通渋滞や交通公害の減少を図るため、交通安全施設の計画的な整備を行い、安全な交通環境の実現を図る。</p> <p>指標：交通事故発生件数 目標：前年（平成27年中9,328件）以下 実績：8,087件</p> <p>2 施策の実施状況 (1) 補 助 事 業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 交通管制システムの整備</li> <li>交通管制センター整備 一式</li> <li>集中制御機 20基</li> <li>情報収集装置 2式</li> <li>情報収集提供装置 16基</li> <li>監視用テレビ 2台</li> <li>イ 交通信号機の新設</li> <li>プログラム多段式信号機新設 1基</li> <li>半感应式信号機新設 1</li> <li>歩行者用・車両用灯器増設 12灯</li> <li>ウ 交通信号機の改良整備</li> <li>信号機プログラム多段系統化 5基</li> </ul>

				信号機半感应化	2基
				信号機プログラム多段化	21
				信号機押ボタン化	8
				歩車分離化	1
				信号機多現示化	2
				視覚障害者用付加装置	6
				歩行者用・車両用灯器LED化	55灯
				信号機移設等	9基
			エ	道路標識の整備	
				路側式標識（高輝度）	420本
			(2)	単 独 事 業	
			ア	交通管制システムの整備	
				交通管制センター整備	一式
				交通管制情報線改修等	57本
			イ	交通信号機の新設	
				歩行者用・車両用灯器増設	14灯
			ウ	交通信号機の改良整備	
				歩行者用・車両用灯器LED化	59灯
				信号機プログラム多段系統化	6基
				信号機半感应化	1
				信号機プログラム多段化	3
				信号機多現示化	1
				視覚障害者用付加装置	1
				信号機改修	97
				信号機電源付加装置	57
				道路の森改修	10
				信号機移設等	49
			エ	道路標識の整備	
				路側式標識	1,210本
				大型固定反射式標識板	3
				標識移設	4
				標識の建植手入れ	一式
			オ	道路標示の整備	
				横断歩道の設置塗替	973本
				実線標示の設置塗替	10.33km
				図示標示の設置塗替	1,730本
				自転車横断帯の設置塗替	180
				道路標示の消除	2.91km

科 目	予 算 現 額	決 算 額	主 要 な 施 策	施 策 の 実 施 状 況 と 成 果 等
	円	円		<p>カ 交通信号機等の維持管理 一式</p> <p>3 執 行 額 1,343,268,279円</p>
<p>2 警察活動費</p> <p>1 警察活動費 (P196)</p>	<p>119,813,000 (2,006,622,600)</p>	<p>117,601,830 (1,999,693,610)</p> <p>決算額の財源 内訳 国庫支出金 45,110,558 一般財源 72,491,272</p>	<p>犯罪被害者等支援活動 推進事業 (警 務 課)</p>	<p>1 施策の趣旨等 犯罪被害者等の権利利益の保護を図るため、犯罪被害者等基本法、第3次犯罪被害者等基本計画、犯罪防衛京都アクションプランに基づき各種施策を推進する。</p> <p>2 施策の実施状況</p> <p>(1) 関係機関・団体との連携及び社会全体で犯罪被害者等をサポートする気運を醸成した。 京都府犯罪被害者支援連絡協議会の運営</p> <p>(2) 被害者支援の確実な実施のために相談受理体制の充実と効果的な広報啓発活動を行った。</p> <p>ア レディース110番等の各種相談窓口の運用 イ 被害者相談窓口広報用のウェットティッシュや警察における被害者支援の広報用リーフレットを活用した広報啓発活動の実施 (主な広報啓発活動) 府警音楽隊定期演奏会等における広報啓発活動 地域イベント、街頭等における広報啓発活動 学校、大学における広報啓発活動 警察署単位犯罪被害者支援連絡協議会における広報啓発活動 生命のメッセージ展、ゼスト御池におけるパネル展の開催</p> <p>(3) 身体犯被害者・性犯罪被害者等の診断書料等に係る経費を公費負担し、被害者等の経済的負担の軽減を図った。</p> <p>ア 身体犯被害者に対する初診料、診断書料 イ 性犯罪被害者に対する初診料、診断書料等 ウ 一時避難に係る宿泊施設利用料 エ 精神科医師の診察料 オ 司法解剖後における死体検案書料 カ 司法解剖後における遺体修復料</p> <p>3 執 行 額 3,408,252円</p>

		<p>身近な犯罪を許さない 社会づくり推進事業 (生活安全企画課)</p>	<p>1 施策の趣旨等 刑法犯少年の検挙・補導人員の中で高い割合を占める万引き・自転車盗等の身近な犯罪の発生を抑えるため、住民、事業者、行政との協働による抑止活動を推進する。</p> <p>指標：刑法犯認知件数 共通目標※：24,000件以下 実績：20,479件</p> <p>2 施策の実施状況</p> <p>(1) 京都府万引き防止対策推進協議会加盟店舗等と連携し「万引き防止キャンペーン」を実施するとともに、各店舗に対して万引き防止ポスターを掲示すること等により万引きを許さない社会気運を醸成した。</p> <p>ア 万引き防止キャンペーンの実施 (主な取組み) イオン亀岡店における防犯ボランティアと連携したキャンペーン (亀岡警察署) マツモト新そのべ店における中学生と連携したキャンペーン (南丹警察署) 福島文進堂における万引きキャンペーン (福知山警察署)</p> <p>イ 啓発ポスターの掲示 京都府万引き防止対策推進協議会会員店舗等 4,000枚</p> <p>(2) 自転車盗の抑止を目的とした「鍵-1グランプリ2016」の実施により、中高生の規範意識、防犯意識を醸成した。</p> <p>ア 参加状況 学校対抗鍵かけコンテスト参加校 (高等学校対象) 71校 鍵かけイラストコンテスト応募数 (中高生対象) 807作品</p> <p>イ 鍵かけイラスト入りポスターの掲示 府内全中学校、高校、マクドナルド、パナソニック等 5,200枚</p> <p>ウ 中高生を対象とした自転車盗被害防止キャンペーンの実施 (主な取組み) 京都両洋高校周辺における高校生を対象としたキャンペーン (中京警察署) 八幡市内の中高生と連携したキャンペーン (八幡警察署)</p> <p>(3) 学生・現役世代による防犯ボランティア活動を促進するため、活動用ベスト等の物的支援や防犯ボランティア保険への加入支援を行った。 (学生防犯ボランティアの主な活動実績) 啓発活動 62回 パトロール 29 防犯教室 16</p> <p>3 執 行 額 6,057,478円</p>
--	--	---	--

科 目	予 算 現 額	決 算 額	主 要 な 施 策	施 策 の 実 施 状 況 と 成 果 等
	円	円	<p>青少年に対するサイバー犯罪被害防止対策事業 (サイバー犯罪対策課) 少年課</p> <p>予測型犯罪防御システム構築事業 (刑事企画課)</p>	<p>1 施策の趣旨等 サイバー犯罪から青少年を守るための対策を実施するとともに、複雑、多様化、増加するサイバー犯罪に対する捜査体制の強化を図る。</p> <p>指標：警察職員やネット安心アドバイザー等によるサイバー犯罪被害防止講演の実施回数 目標：1,725回以上 実績：1,778回（平成28年中）</p> <p>2 施策の実施状況 (1) 青少年のネット問題等に専門的知識を有する大学准教授等を「ネット安心アドバイザー」として登録し、府内の高等学校等においてサイバー犯罪被害防止に係る講演を実施し、青少年のネットモラルの醸成や、ネットトラブル対応能力の向上を図った。 実施回数 100回 アドバイザー登録数 23人 (2) 援助交際等のインターネット上の不適切な書き込みをサイバーパトロールで発見し、児童と接触して補導する「サイバー補導」を実施することで、児童の被害の未然防止を行った。 ア サイバー補導取組状況 交信回数 509回 不適切な書き込みの発見 71件 現場接触の実施 8 イ サイバー補導実施状況 補導人員 8人</p> <p>3 執行額 2,367,857円</p> <p>1 施策の趣旨等 高度な犯罪分析機能により犯罪予測を行い、的確なパトロールコースの選定や府民への効果的な情報発信による犯罪抑止活動を強化するとともに、犯罪の早期検挙を推進する。</p> <p>2 施策の実施状況 犯罪予測理論や学識経験者の知見を基に効率的な検挙・抑止活動を実施するため、平成28年10月1日から運用を開始した。 運用開始後、犯罪予測を活用した府民との協働パトロール等、犯罪予測エリアでの重点的な犯罪抑止活動の実施や、先制的な検挙活動による連続的な性犯罪の検挙や窃盗犯の現行犯逮捕等、検挙・抑止の両面で成果を挙げた。</p> <p>3 執行額 58,406,319円</p>



		<p>危機管理態勢充実・強化事業 (警備第一課)</p>	<p>1 施策の趣旨等 東日本大震災の教訓を踏まえ、大規模災害発生時に備えて災害警備活動用資機材を整備することにより、総合的な危機管理態勢の充実・強化を図る。</p> <p>2 施策の実施状況</p> <p>(1) 原子力災害対策用資機材の整備 福井県の原子力発電施設において原子力災害が発生した場合に、京都府内のUPZ圏内の住民（約13万人）を円滑に避難誘導するため、管内に避難中継所候補地がある警察署に拠点用エアテント7セットを配分した。 南丹警察署 1、綾部警察署 2、福知山警察署 2、宮津警察署 1、京丹後警察署 1</p> <p>(2) 災害・水難事故等への対応能力強化 台風や集中豪雨等による水難事故発生時に備え、救助・捜索活動用として配備している船外機付きゴムボートの老朽化に伴う更新整備を行った。 宇治警察署 1 艘</p> <p>(3) 放射線防護資機材の点検整備 原子力関連事故等発生時の部隊活動に必要となる放射線防護資機材（サーベイメータ、個人線量計）の点検整備を実施した。 サーベイメータ 表面用 48台、空間用 48台 個人線量計 1,110台</p> <p>(4) 災害対策ヘルメットの整備 災害警備部隊の活動時に部隊員の頭部を保護するため、災害対策ヘルメットの整備を行った。 災害対策ヘルメット 259個</p> <p>3 執 行 額 <span style="float: right;">47,361,924円</span></p>
--	--	----------------------------------	--